

カパー
ロマン

縁の下の力持ち



榎原 紘

社団法人日本銅センター
会長
(三井金属鉱業株式会社
代表取締役社長)

非鉄製錬会社に入社し四十年。銅製錬や伸銅品の職場を経験しなかった私ですが、銅との付き合いは、もう三十五年にもなります。

最初の銅との関わりは、クロムメッキの下地に施す銅メッキ。製品の外觀・密着性の良否を左右する重要な工程です。昭和四十年代初め、自動車や家電などの部品に、クロムメッキの亜鉛ダイカストが多く使用されました。当時、当社も同製品に注力し、私が当分野に配属されたのも同じ頃でした。生産現場で仕事をすると、銅メッキの品質管理には、たいへん神経を使つたものです。

TABテープに携わつた時も、銅との出会いはありました。TABテープはポリイミドフィルム上に銅箔を貼り、ケミカルエッチングで表面に微細回路を形成した電子部品。主に液晶駆動用として、パソコン・テレビなど、液晶パネルを用いる機器に、今や不可欠な部品です。事業の草創期、銅箔による回路形成技術を確認するため、様々な試行錯誤を繰り返したことが、今では懐かしい思い出です。



普段、目には触れないTAB。着色被膜やスズメッキで覆つた回路は、たとえ見ても、すぐに銅とは分かりませぬ。電子機器の中でひっそり身を置き能力を発揮するそれがTABにおける銅の姿です。このように、私が関わってきた銅は、電線・伸銅品に比べ、目立たない場所で使用されるものばかり。しかし、そうした用途こそ、銅の次なる可能性でもありまし

た。現在、箔や粉などに形を変え、先端産業を支える素材として活躍の場を拡げる銅。導電性や延展性など、他に代替できない銅の優れた性能が、その流れを加速させています。

『縁の下の力持ち』そんな銅の二面と長く付き合つてきた者にとり、銅の未来に期待と夢が尽きることはありません。

銅

第159号

目次

巻頭言……………	2
カパーロマン「縁の下の力持ち」 榎原 紘	3
銅の歴史物語 ⑰ ハーモニカ	3
記憶にのこる黄銅リードの音色	3
銅と暮らしのロータリー ⑱	4
人とともに、海とともに育まれる銅	4
日比共同製錬(株)玉野製錬所	4
リレー 随想……………	6
ターコイズブルーと銅の神秘 井上真希	6
カパー・カルチャー……………	8
鑿器の国を行くー韓国食文化と銅食器	8
カパードリウム……………	10
太平洋横断から十五年ー	10
銅合金製ヨット「秋津洲II世号」	10
銅を学ぶ銅話の世界 ⑰	12
対談ー銅イオンが	12
クリプトスポリジウムに抗菌効果を発揮	12
銅の需給動向……………	13
銅センターヨトス……………	14
ニゴストピックス……………	14

表紙のごとば



進水して十六年。大平洋を横断したキユプロツケル製ヨット「秋津洲II世号」は、重厚な船腹を見せ、ひと時の休息を過ごす。大海原への挑戦を前に――

戦を前に――